

令和4年度

浜田市と島根県立大学との共同研究

報告書

2023年1月

主権者教育の現状とこれからの取り組みについて

島根県立大学

光延研究室

概要

令和4年度の浜田市と島根県立大学との共同研究では、地域政策学部の光延研究室と浜田市議会との連携による「主権者教育」について調査と実習を実施した。

【調査】

研究代表者と研究従事者(研究室学生)が、他学の専門家などの助言や参考になる事例を調査して、本研究の基盤を構成した。

【実習】

調査を踏まえて、研究従事者による市議会との連携による各種実習を行った。

調査と実習

主権者教育と言えば、一般的には新しく選挙権を得て有権者となった国内では18歳、19歳の政治参加、特に選挙への参加を促す意味での啓蒙活動を指すが、ここでは浜田市議会と主に本研究室の学生との共同による「若者の政治参加」への関心を主題に、実施された。

その際、研究代表者は、①学外の専門家や各種文献、諸資料を踏まえて、②政治家と若者有権者との論議、③若者の政治参加を促す政治家からの広報技術の獲得、④若者の政治参加の状況を広く啓蒙する職業体験などの諸点から、これを実施した。

研究従事者

従事者

総合政策学部、介見 要一郎、掛尾 一樹、行保 秀俊、山添 正広
国際関係学部、有野 夢叶ほか、光延研究室内、地域政策学部2年
総合政策学部3年演習生

代表者 地域政策学部、光延忠彦

浜田市議会議員との対論

目的と意義

目的 より効果的な主権者教育方法の模索

昨今、若者の投票率が低下しているという問題が生じている。この問題にはそもそも政治について「分からない」や「興味がない」という声も多い。

そこで、議員との直接対話という方法を用い、身近な生活部分から生じる素朴な疑問を話し合う事により、政治意識の向上を試みる。

概要

議題

- 浜田市の良い点、改善点
- 住みやすい市にするために
- 選挙投票率を高めるためには
- 投票率向上の具体的方法について



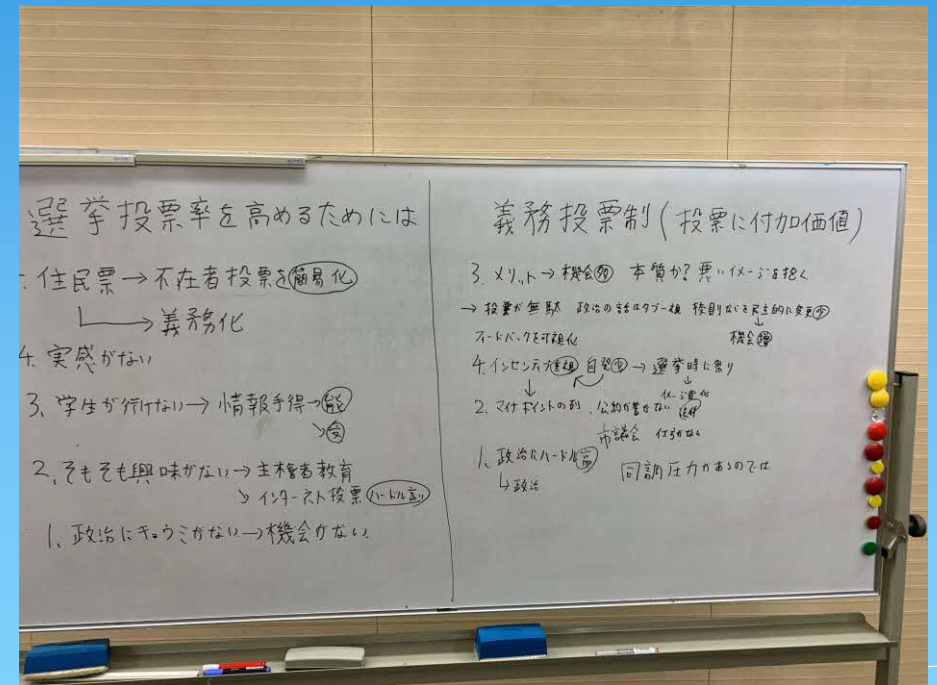
浜田市の現状と改善点

前半では浜田市の身近な部分での課題や、良いところなどの意見交換を行った。

政策論争の様な議題はあえて避け、あくまでも生活の中で考えていることを率直に話し合う時間をより多く設けた。

投票率向上に向けて

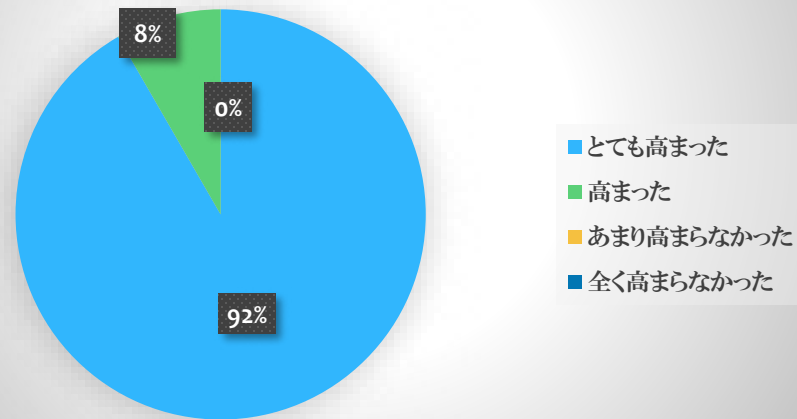
後半では、海外の事例を参考にしつつ、投票率を高めるためにはどうすべきかという問題をソフト、ハードの両面から自由闊達に議論を行った。



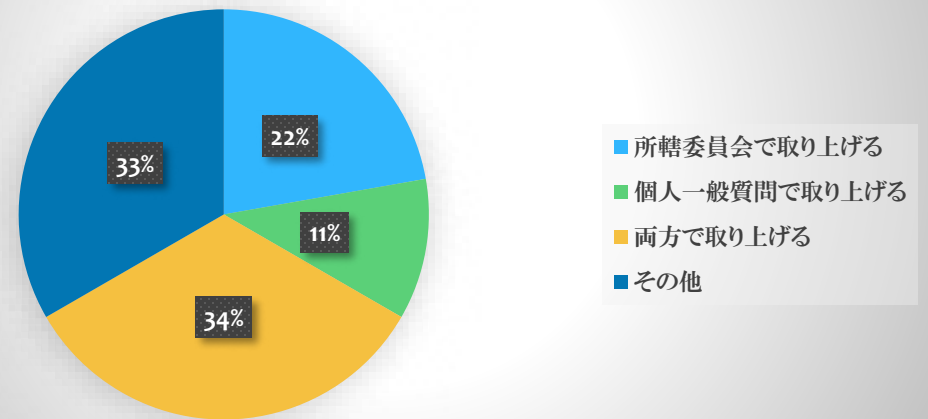
成果

対談後議員、学生それぞれにアンケートを実施し、成果の確認を行った。

議員直接議論することで政治、
市政への関心が高まりましたか。



意見交換で得たことを、議会活動でどの様に活かしたいと考えているか



アンケートより一部抜粋

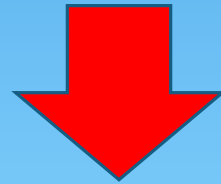
自由回答

- ・浜田市のことを一番に考えて下さっている方々と話すことで、浜田市の現状や議員さん側の意見が聞けたので、すごく充実した時間を過ごすことができました。
- ・なかなか逢えない議員さんと交流できて市政に凄く関心が高まりました。
- ・率直な意見、提言を聞けて嬉しく思います。

アンケートより一部抜粋

課題、改善点

- ・意見交換時に、スケジュール上の理由から時間を制限せざるを得ない場面が見られた。
- ・新型コロナウイルスの影響もあり、参加人数を制限せざるを得なかった。



より広い会場で、時間に余裕を持ち意見を万遍なく拾える様にならない。

まとめ

今回の議員との直接的意見交換会は、アンケート結果から政治意識や投票率の向上に大きく寄与することが出来た。

また、議員の方々においても意見交換で得た事を議会活動で活用して下さるとのご回答を頂けた。

講義的な主権者教育だけではなく、身近な生活部分から興味を持ってもらう為には議員との関わりを増やすという方法が有効であるという成果を得た。

浜田市議会議員との共同研修

目的と意義

目的：若年層の政治参加意欲と投票率の向上

今日では若年層の投票率低迷が大きな問題となっており、浜田市も同様である。その背景には、若年層が選挙を「馴染みのないもの」として敬遠する姿勢がある。

そこで、主権者に選挙に行くように一方的に促すのではなく、非選挙者である浜田市議員が、今日の若者の生活には必要不可欠な存在であるSNSを積極的に利用し、主権者に歩み寄ることで、若者が自然と選挙に関心を抱くようになる状態を目指す。

概要

1. 現代の選挙におけるSNS戦略の効果・影響の解説
2. 各種SNSの特徴や強みの紹介
3. 議員ご自身のスマートフォンを用いて、実際にアカウントの作成 (Instagram)
4. 基本的な操作方法の紹介 (Instagram)
5. 若年層から共感を得やすい投稿・運営の方向性の提案

1. 現代の選挙におけるSNS戦略の効果・影響の解説



- 日本におけるSNS利用者数の増加
- 投票率が低迷する若年層のSNS利用状況
- 2022参院選におけるSNS戦略の成功事例

以上を解説することで、議員の皆様が
「なぜ選挙にSNSを利用するのか？」という
疑問を解消できるようにした。

2. 各種SNSの特徴や強みの紹介

- Twitter
- Instagram
- YouTube
- TikTok
- Facebook

上記5つのSNSについて特徴や強みを紹介した。

①圧倒的若年層の支持率 ②投稿の簡易性 ③原則無料

この3つの理由から、我々はInstagramが最適だと判断し、
今回は議員の皆様にInstagramを利用していただくことにした。

3. アカウント作成 4. 操作の紹介



- Instagramのアカウントを、議員ご自身のスマートフォンを用いて作成
- Instagramの基本的動作について紹介（投稿機能、フォロー機能、検索機能など）

全体説明の後、我々3人が議員の席を巡回し、直接質問を受け付けたり、トラブルにその場で対処するようにした。

5. 若年層から共感を得やすい投稿・運営の方向性の提案

若年層から共感を得やすい投稿・運営の方向性として、次の2つを提案した。

① 浜田市の飲食店に関する投稿

島根県立大学は浜田市外出身の学生が多く、「隠れた名店」を知らない可能性が高いことから、飲食店での食事の様子を投稿すれば、学生が興味を持ち、地域活性化にも期待できる。

② 他の議員との2ショット写真の投稿

雰囲気の良い投稿にはなかなか興味を抱きづらく、議員の明るくフランクな投稿は、選挙を敬遠しがちな若年層に親近感を与える。
また、他の議員を紹介することで、拡散効果の向上も期待できる。

成果

- ・議員を対象とした参加者アンケートでは、全員が「今後はSNSを利用したい」と回答した。
- ・「以前はSNSを利用していなかったが、今後は利用したい」と回答した議員の意見としては「魅力を感じた」「効果がありそうと感じた」「操作が簡単だった」などが寄せられた。
- ・主権者(浜田キャンパス学生)を対象としたアンケートでは、浜田市議員のSNSを閲覧した経験がある人は30%にとどまった。
- ・「もし議員がSNSを積極的に利用した場合、面白いと思い、選挙に行こうと思う」と回答した人は70%となった。

まとめと課題

【まとめ】

議員が積極的にSNSを利用すれば、選挙に関心を抱く若者が増加し、投票率の向上に繋がる可能性が高い。

【課題】

アカウントを作成してから約1か月では、認知度が急上昇しなかった。したがって、SNS戦略に即効性はなく、継続的な投稿と定期的な更新が議員には求められる。



浜田市議会の学生体験

目的

- 島根県立大学と浜田市議会との共同事業を通じて、若者の政治関心を高め、大学生と政治がより身近にするための先駆けとして
- 昨今の世の中で話題となっている環境分野に関して、浜田市の取り組みを調査し、浜田市の未来づくりについて浜田市議会を体験する。

概要

期間

2022年12月5日～2022年12月21日（市議会12月定例会期間）

内容

議会本会議及び常任委員会傍聴

議長との懇談

議員（広報委員会）との懇談、三浦委員長、村武副委員長、肥後委員

成果

12月5日 本会議一般質問 傍聴

12月6日 議会運営委員会 傍聴

12月7日 本会議一般質問 傍聴

12月13日 産業建設委員会 林業に関する意見交換会 傍聴

12月14日 環境に関する意見交換会 傍聴

12月21日 ギカイと語ろう
議長との懇談

意見交換会の記事 2022年12月15日付 山陰中央新報より

インターンで議会学ぶ

島根県立大1年の有野さん



浜田市議と意見交換する有野夢叶さん（右）＝浜田市殿町、市役所

浜田市議と産業振興議論

島根県立大（浜田市野原町）1年の有野夢叶さん（19）が、市議の仕事や地域づくりを学ぶインターンシップ（就業体験）に参加している。12月定例会議の傍聴を続け、14日は市の活性化策について市議と議論。議会の仕組みや物事の決定過程に理解を深めた。

（中村成美）

5日に市議3人初顔合わせし、議員になる前の職歴や市議になった理由を質問した。定例会議では個人一般質問と委員会を傍聴してきた。

14日の市議との議論では産業振興と環境負荷低減の両立に向け、市に水素自動車用ステーションを設置することを提案。市議からは国の補助金活用や、既に一部で実施されているとして、手始めに浜田港で温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」を進めてはどうかといった意見が出た。

有野さんは愛知県豊田市出身で4月から県立大国際関係学部で学ぶ。トヨタ自動車の関連会社に勤める父親の影響で、労働組合の会報誌を読むなど幼少期から政治に関心があった。今夏

県美の北斎展PR

作品柄の紙バッグ作製



葛飾北斎の作品をデザインしたペーパーバッグ作りを楽しむ参加者。東京都千代田区有明町、日比谷美術館

は自ら企画して国会議事堂を訪れ、自動車総連出身の議員秘書らと参議院の役割について意見交換した。

インターンは有野さんの政治への興味を知った県立大が参加を打診し、市議会主催で実現した。議会傍聴は初めてだった。

有野さんは、議会で市議が市担当者より力強い発言を見て「市議の郷土愛を感じたし、合意形成のプロセスの一端を理解できた」と笑顔を付けた。市議で議会広報広聴委員会の三浦大紀委員長は、議会に興味を持つってもらい口づけりを今後も考えたいと話した。

インターンは、若者の投票率向上に向け、県議会がSNSで開く。

行政・議会短信

（島根）

安来市議会の会期終わる。安来市議会の12月定例会議は14日追加提出された今案3件目の2022年度一般会計補正予算案を含む議案を原案通り可決、同意し会期を終えた。

同補正予算は総額2億5千万円。歳出に新型コロナウイルス禍

は自ら企画して国会議事堂を訪れ、自動車総連出身の議員秘書らと参議院の役割について意見交換した。

有野さんは定例会議最終日の19日まで続け、市議会が21日にも大学を招き市議とのグループ討論会や、学生が講師となり議員が学ぶ交流サイト（SNS）講習会を開く。

謝辞

この共同研究では、浜田市議会議長、笹田議員をはじめ、広報広聴委員会委員長、三浦議員、同副委員長、村武議員、同委員、肥後議員はもとより市議会議員の皆さん、そして市議会事務局長をはじめとした事務局職員の皆さんに多くを支えられた。この様子は、各種メディアでも取り上げられ、成果が公表されている。ここに記して感謝を申し上げたい。